

七夕カップル

－男女交際のあり方を考える－

- 1 学年 第9学年〔後期〕
 2 主題名 男女の理解〔2－(4)〕
 3 ねらい
 別れることで相手のことを大切にしようとする「織絵」の決断を通して、男女交際のあり方について理解を深めさせ、恋愛感情に流されずお互いの人格を尊重しようとする態度を育てる。
 4 資料名 「七夕カップル」
 5 展開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 大崎上島の豊町七夕納涼祭について知る。 ○ この祭りを知っていますか。どこの祭りでしょう。 ○ 七夕伝説はどんなお話か知っていますか？	<ul style="list-style-type: none"> 知らない。 宮島の管弦祭 どこかの海上花火大会 御手洗は魅力ありそうな所だ。自分も行ってみたいな。 織姫と牽牛が年に一度会う話 	○ 大崎下島の地図と写真等を活用し、御手洗地区の魅力を伝え、資料への興味付けを行う。
展開	2 資料「七夕カップル」を読んで話し合う。 ○ 「織絵」は「晋介」に交際を申し込まれた時、どんな気持ちだったでしょう。 ○ 「織絵」は「晋介」の言葉に涙が込み上げてきた時、どんな気持ちだったでしょう。 ◎ 「織絵」はなぜ別れる決心をしたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> やったあ。うれしい。 これからが楽しみだな。 友達に何て言われるかなあ。 他の女の子に恨まれないかなあ。 二人の交際がおばあちゃんの言う通りになってしまっている。 今の交際がこれでいいのかな。 出会った時の「晋介」じゃなくなってしまった。 私は野球部のピッチャーで活躍している姿が好きだったのに今は違う人になっている。 私との交際が「晋介」をだめにしていくことに気が悲しい。 成績が下がってしまったから。 私と付き合うことがプラスになっていないから。 このままでは、私も「晋介」もだめになりそうだったから。 お互いが高校受験の不安から逃げるために恋愛に夢中になっていたことに気付いたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 恋愛に憧れる「織絵」の気持ちに共感させる。 ○ 「織絵」が決心した内容を考えさせた後に資料の後半を範読する。どういう決断内容であっても相手を尊重しようとする気持ちが表れていることをおさえる。 ○ 恋愛感情に流されず、好きな相手の幸せを優先して考えることの大切さに気付かせる。
終末	4 教師の説話を聞く。 5 物語の結末を知り、感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 付き合うことだけが恋愛ではない。片思いでも自分を高めるエネルギーにしたり、相手のために役立つことを喜びにできたりするのが恋愛なのかなあ。 	○ 人生の先輩として教師自身の経験を語る。

6 授業の概要

(1) 主題について

思春期を迎えた生徒たちは、お互いを男女として意識し、思いを伝え、カップルをつくるという具体的な行動が見られるようになる。しかしながら、今日、人前でも平気で手をつないだり、興味本位のゆがんだ情報や間違っただけの性意識を無批判で受け入れ、様々な問題行動に至ったりする生徒もいる。

男女間における関係は、それが友情に基づく場合でも、恋愛感情に基づく場合でも、相手に対する理解を深め、信頼と敬愛の念をはぐくみ、互いに向上していくものでなければならない。本資料の「別れる」ことで相手のことを大切にしようとする主人公の決断を通し、異性を好きになる気持ちを、互いが高め合う形で生かしていこうとする意欲と態度をもつことの大切さに気付かせたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 情緒あふれる御手洗地区の風景の活用

御手洗地区は、情緒あふれる江戸の街並みの風情を残す隠れた呉の名所である。また、豊町七夕納涼祭も身近で海上花火を楽しむことのできる楽しいイベントである。パネル写真等を使い視覚を通して、ふるさとの風景をしっかりと生徒に伝える場にもしたい。

イ 活用の時期

七夕の時期や中学3年生のキャリア学習において進路学習を行っている時期に行うことを想定して作成した。

ウ 他教科等との関連

3年の社会科の公民分野や技術・家庭科（家庭分野）の「男女共同参画社会をめざして」等との関連を図りたい。

エ 本資料をジレンマ的資料として扱う場合

主人公「織絵」が「晋介」と別れる決心をするところで資料をカットし活用するのもよい。その際に、自分が「織絵」なら「晋介」との交際についてどうすべきか、2-(4)「男女の理解」と1-(4)「理想の実現」の二つの価値について判断し、その理由付けを考え、話し合いを通して授業を展開させ、終末はオープンエンドにすることも考えられる。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

七夕伝説は、生徒もよく知っている恋話である。一見、ロマンチックに見えるこの話は、恋愛にばかり夢中になる若者への教訓話でもある。この伝説を想起させることで自然な気持ちで資料へ引き込みたい。

イ 展開の工夫

「手をつなぎたい」という感情に対して、それが自然であることにしっかり共感させたい。一方で、それが事実でも事実でなくても、人前でそういう行為をすることが世間では、相手の人格を傷つけるうわさの原因となる現実の重さも考えさせたい。

ウ 終末の工夫

授業展開においては、資料最後の5行は、資料からは省いて扱うのもよい。その場合は、最後にこの二人が七夕カップルと呼ばれるになったのか、理由について触れ、余韻をもたせオープンエンドで終わりたい。

執筆者より

自作資料を作成するにあたり留意した点は、登場人物の名前と設定である。文中で使用する名前や設定が重なる生徒がいると、からかいのネタになったりするため、場合によっては名前や設定等を変更する等の配慮が必要である。